

入山&農作業時は細心の注意を

山菜採り・キノコ狩りはクマのテリトリーに入る行為です。また、農作業時も注意が必要です。以下の点に注意しましょう。

- ・ラジオなど音の出るものを携帯
- ・複数人で行動
- ・見通しの悪い場所では声を出す



鉢合わせを防ぐために
知っておきたい

3つの心構え

生活圏に寄せ付けない

クマは匂いで食べ物を探します。一度餌を得ると、その場所に執着し、何度も戻ってきます。クマを寄せ付けないよう、食物やゴミの放置はやめましょう。

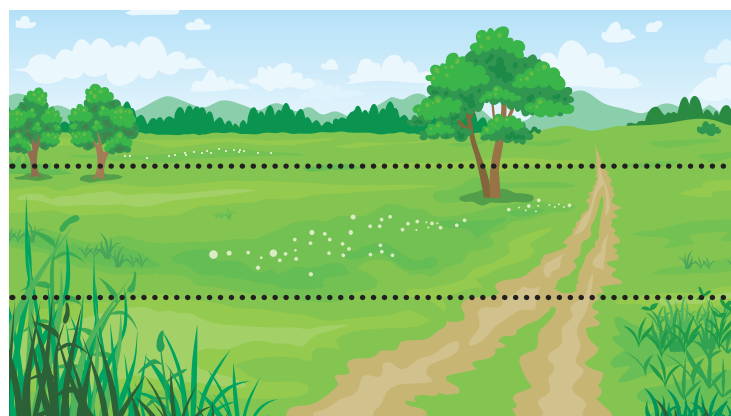


もしもの時を想定する

クマは住宅地・市街地にも出没する可能性があります。もしもの時を想定し、日頃から注意を払って行動しましょう。

- Good
- ・ 出没情報をこまめにチェック
- ・ 早朝／夜間の散歩は避ける
- ・ 通学路／地域で注意の声がけをする

それでも遭遇してしまったら…？



長距離 気づいていない場合は、声を出さずゆっくりその場を離れましょう。

50m前後 両腕を振り存在を知らせながら、障がい物を間に挟んでゆっくり後退しましょう。

20m以内 大声・走る・背中を向けるは厳禁。目を離さずゆっくり後退してください。

突進してきたら…



多くの場合、威嚇突進のため途中で止まります。間に障がい物がくるよう後退し、目・鼻に向け撃退スプレーを噴射するか、うつぶせで頭と首を覆う防御姿勢をとります。

子グマを発見したら…



かわいくとも絶対に近づかないでください。子グマを守ろうとする母グマが突然現れることがあります。声も出さず、ゆっくりとその場を離れましょう。春は特に注意です。

山形市LINE公式アカウントでクマ情報を発信中

山形市では、クマの出没情報をLINEでリアルタイムに配信しています。お住まいの地域の情報をいち早く受け取るために、今すぐ友だち追加を。



クマの痕跡を見つけたら…

市へ連絡！

☎641-1212 (内線456)

高い学習能力

一度餌を食べた場所を忘れず、執着する



爪痕

鋭い嗅覚

犬より鋭い嗅覚で、食べ物の匂いを遠くから察知する

時速40-60km

全力疾走しても追いつかれる



フン

- ・ 大きさは握りこぶしほど
- ・ 消化能力が低く、種や繊維などが残っている
- ・ 食べるものによって形状・色が変わる(柿ならオレンジ色っぽいなど)
- ・ 排泄物特有の臭いはほとんどない

子連れ母グマは特に危険！

子グマのそばには必ず母グマが。母グマは特に攻撃的。



足跡

- ・ 前と後ろで足跡が違う
- ・ 5本指の跡があり、4本指のイヌと異なる

ツキノワグマの生態

クマは本来、人を避けて森深くで暮らす動物です。しかし近年、本来の生息域ではない人の生活圏での出没が全国的に増えています。

生活サイクル

春

山菜シーズンと重なる活動期。若グマの移動で出没が増えます。

夏

繁殖期でオスが行動圏を拡大。農地周辺での出没に注意。

秋

冬眠前の飽食期。キノコシーズンとも重なり事故が多くなる傾向。

冬

11月頃から4月頃まで冬眠。出没はほぼありません。

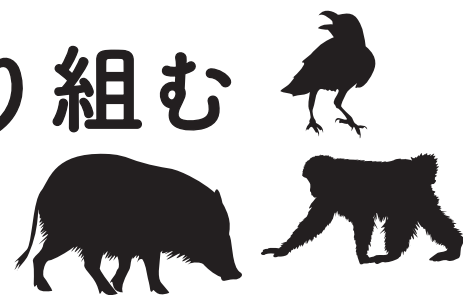
山形市の現状

5月ごろから多くの目撃情報が寄せられており、これまで山際の一部エリアに限られていた出没が、住宅地の近くや農地周辺など、人の生活圏内でも増えてきています。

3,750 万円

令和7年度
農作物被害総額

地域で取り組む 鳥獣対策



鳥獣による農作物被害は市全体で年間3,750万円にのぼります(令和7年度)。皆さんの安全で安心な生活環境を守るため、市では、農作物被害や生活環境への影響を防ぐための各種補助制度を設けています。

問 鳥獣被害対策課 ☎内線456



クマによる枝折り



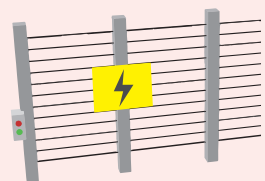
サルによる食害



イノシシの掘り起こし

こうならないために…

農家・地域でできる対策



電気柵の設置で農地への侵入を防ぎます。



採り残した果実は放置せず速やかに収穫を。



やぶの刈り払いでクマの隠れ場所をなくしましょう。



地域みんなで出没情報を共有しましょう。

被害にお困りの方は、市に相談を

私たちが一緒に対策を考えます

電気柵等設置補助

クマ・イノシシなどの侵入を防ぐ電気柵・ワイヤメッシュ柵の設置費用を一部補助します。

やぶ刈り・果樹伐採の補助

野生鳥獣の移動経路になるやぶの刈り払い、誘因物になる不要果樹の伐採費用を補助します。

鳥類用防除機器の貸し出し

カラスやムクドリなどへの防除機器・レーザーポインターを無料で貸し出しています。

箱わな貸し出し

ハクビシン・タヌキ用の小型箱わなを無料で貸し出しています。

狩猟免許取得補助

銃器やわなの狩猟免許を新たに取得する場合、取得費用の一部を補助します。

鳥獣被害対策実施隊は、クマ・イノシシ・サルなど野生鳥獣の被害を防ぐために市が設置している組織です。山形猟友会から推薦された隊員が、市の非常勤職員として活動しています。



わなの見回りパトロール

市内のクマ出没は昨年度374件で、今年度も人の生活圏での出没情報が相次いでいる。市は対応の迅速化・効率化のため、業務を一元化した「鳥獣被害対策課」を新設。「市民の安全を最優先に、緊急銃猟の実地訓練やAIカメラの設置計画、独自の「地域ぐるみ鳥獣被害対策事業」など多角的な体制整備を進めている。

その最前線で動いているのが、猟友会の推薦を受け市の非常勤職員として活動する「鳥獣被害対策実施隊」だ。隊長(鳥獣被害対策課長)の指示に基づく業務は日常のパトロールから、農作物被害の対策、フンや痕跡通報時の現場確認、追い払いや捕獲まで多岐にわたる。

現場は困難を極める。副隊長の青山氏は「特に住宅密集地での対応や、わなの中にクマを誘引して行う捕獲は、近隣住民の危険度も高まるため判断が非常に難しい」と語る。相手は賢く対策がしにくいサルや人に対して全力で突進してくるイノシシ、想像をはるかに超える身体能力を持つクマ。常に大きな危険が伴う上、命と向き合う過酷な現実を抱えながら市民を守り続けている。

実施隊に入るには？

地域を守る鳥獣被害対策実施隊は、特別な経験がなくても参加可能です。入隊には山形猟友会への入会が必要ですが、未経験の方も広く受け入れています。活動を通じて狩猟の技術や知識を学べるほか、狩猟免許取得費用の補助制度も用意されています。「市民の安全を守りたい」という思いが、活動の第一歩となります。

まずはお気軽にご相談ください。

問 鳥獣被害対策課 ☎内線456

地域を守る
"実施隊"って
なに？



鳥獣被害対策実施隊 副隊長
青山 (山形猟友会会長)

わなの見回りや追い払いパトロールなど、市民の安全を守るための活動を日々行う。



鳥獣被害対策課

令和8年度に新設。出没情報の発信や注意喚起、補助制度の運用を担うとともに、実施隊の活動支援を行う。